

耐火テクト中塗

TAIKA TECT UNDERCOAT

一般名称	エポキシ樹脂中塗塗料			
適用規格	JIS K 5659:2018 鋼構造物用耐候性塗料 A種中塗り塗料			
系統	ケチミン硬化形エポキシ樹脂中塗塗料			
主な用途	【耐火塗装用】			など
適用素材	鉄	亜鉛めっき	アルミ	ステンレス
	—	—	—	—

特長

- 耐火テクト専用の中塗り塗料です。
- 耐火テクトおよび耐火テクトFとの付着性に優れている。
- 乾燥性が良い。

塗料性状	塗料密度(比重)	1.33(白)	
	溶剤密度(比重)	0.88	
	加熱残分	61%(白)	
法令など		ベース	硬化剤
	劇物表示 (品名・含有率)	—	—
	労安法上の 表示有害物	キシレン 1-ブタノール メタノール メチルイソブチルケトン エチルベンゼン	メチルイソブチルケトン
	使用有機 溶剤種別	特別有機溶剤等(特化則適用)	特別有機溶剤等(特化則適用)
	消防法による 危険物区分	第1石油類(非水溶性)	第1石油類(非水溶性)
	硬化剤の成分 による区分	ケチミン	
	ホルムアルデヒド 放散等級	—	

製品情報		ベース	硬化剤
	荷姿	18kgセット	17kg
	混合比(重量比)	ベース:硬化剤=17:1	
	主な色(色相)	白、淡彩色	

素地調整

- 被塗面は十分乾燥させ、汚れ等の不純物の付着がなく、清浄であること。
- 水洗により塩分、水溶性汚染物質を除去する。適切な洗浄剤や溶剤で、油やグリースを除去する。
- 詳細は塗装仕様書を参照ください。

使用方法	調合方法	ベースに対して硬化剤を所定の割合になるまで少しずつかき混ぜながら加えたのち下記のシンナーを規定内で混入し、十分攪拌したのち使用する。		
	熟成時間	不要		
	使用シンナー	テクト中塗シンナー		
	希釈率(重量比)	エアレス: 5~20wt% ハケ・ローラー: 0~15wt%		
	エアレススプレー	2次圧	10MPa(100kg/cm ²)以上	
	塗装条件	チップNo.	163-515~619	(グラコ社製)

耐火テクト中塗

TAIKA TECT UNDERCOAT

使用量と膜厚

塗装方法	標準膜厚		標準使用量 注)
	Dry(μm)	Wet(μm)	g/m ² /回
エアレススプレー塗り	30	75	170
ハケ・ローラー塗り	30	75	140

注)標準使用量は、個々の条件によって異なります。

乾燥時間 塗装間隔 可使用時間

項目		5℃	10℃	20℃	30℃	40℃	
乾燥時間	指触	1時間	45分	30分	30分	20分	
	半硬化	5時間	4時間	2時間	1時間	45分	
標準塗装間隔 注)	最短	16時間	8時間	4時間	3時間	2時間	
	最長	1ヶ月	1ヶ月	1ヶ月	1ヶ月	1ヶ月	
可使用時間		12時間	12時間	7時間	5時間	3時間	

注)上記数値は施工管理上の参考データです。規格に規定がある場合はそれを優先してください。

実施工においては塗膜異常がないことを確認したのちに、次工程塗装してください。下記の主な適用上塗塗料を塗り重ねる場合です。

作業禁止条件 気温5℃以下、湿度(RH%)85以上

主な適用 下塗塗料	強溶剤: 耐火テクト 弱溶剤: — ハイソリット: — 水性: —
主な適用 上塗塗料	強溶剤: 耐火テクトF、セラテクトF(K)上塗 弱溶剤: — ハイソリット: — 水性: —

耐熱温度(大気バクロ環境) —
(短時間とは、概ね1時間以内を目安としてください。)

施工管理 用特数値	希釈率(wt%)	SVR(%)	WET/DRY係数
	0	41.6	2.4
	10	35.7	2.8
	20	31.5	3.2

【理論WET膜厚】=【目標膜厚】÷【SVR】 式または
【理論WET膜厚】=【目標膜厚】×【WET/DRY係数】式で
希釈率毎の管理WET膜厚が算出できます。
※SVR(Solid Volume Ratio)体積固形分であります。

安全情報 ○安全情報に関する詳細な内容は安全データシート(SDS)をご参照ください。
○容器に記載している「安全衛生上の注意事項」をご確認の上、ご使用ください。
○塗料が皮膚につくと人によってはカブレを起こすことがあるので、皮膚につかないように取り扱いください。

貯蔵条件 本製品は特に水分の影響を受けないように保管してください。
高温多湿環境・直射日光を避け、密閉した状態で冷暗所で保管ください。

使用上の
注意事項 1)被塗面の異物(研削材、ダスト、油脂汚れ、水分)や粉化物などは塗装前に除去してください。
2)浮きさびやルーズな黒皮、旧塗膜面の発錆や塗膜の浮きなどは十分に除去して塗装してください。
3)気温5℃以下、高温時の塗装は避けてください。
4)塗膜が乾燥過程で水(降雨など)の作用を受けると白化することがあります。
この場合は軽くサンドペーパーで表面を研磨するなどの処理を行ってください。
5)常時没水される場合は使用できません。
6)高温(40℃以上)で貯蔵や保管されると塗料が増粘します。使い残した塗料は密閉した容器に入れ暗冷所で保管ください。
7)塗料が皮膚につくと人によってはカブレをおこすことがあるので、皮膚につかないように取り扱ってください。
本品の安全衛生上の取り扱いについては技術資料031「エポキシ樹脂塗料の使用上の注意」を参照してください。
8)塗料の取り扱いについての一般的な注意事項の詳細は、SDS(安全データシート)を参照ください。
9)換気の良い場所で取扱い、容器はその都度密栓してください。